

歴史まち歩き

もののふ 神話のロマンスと武士たちの夢に酔う 知多酒のふるさと

23

酒蔵のまち 大高

コース【JR大高駅▶JR大高駅】

ヤマトタケルノミコトとミヤスヒメの伝説が残る古の歴史をひめた氷上の森、落ち着いたたたずまいの大高城下の町並み、そして桶狭間合戦のゆかりの砦など、大高は歴史の変遷に富んだまちです。また、江戸時代の初めから酒造りが盛んとなり、知多酒として江戸で高い評価を得たといえます。現在も3軒の蔵元が日本酒の製造を行なっています。細い道の三叉路は戦国時代の道のままだといわれています。

JR大高駅

明治19年(1886年)3月、愛知県内で武豊、半田、亀崎、緒川、熱田とともに最初に設けられた鉄道駅です。

1 八幡社

桶狭間の戦いの2年後、松平元康(後の徳川家康)は織田信長と同盟を結びます。その翌年、この大高の地に再び訪れた20歳の元康はこの八幡社にお参りをし、義元から一文字を頂戴した元康という名前を捨て、家康と名を改めています。

2 秋葉社

祭神は火之迦具土神(ひのかぐつちのかみ)。昔大高町は火事が多く、防火の神の御霊をお招きして祀ったと言われています。江戸時代には多くの市が立ち、賑わいました。この付近は「辻」と呼ばれ、大高の中心でした。

3 大高城跡

桶狭間の戦いでは、今川方の鶴殿長助(うどのちょうすけ)が守将(城主)となっていました。しかし、鷲津、丸根砦の包囲網で大高城は孤立したため、義元の命で松平元康(後の徳川家康)が大高城へ兵糧を運んだ「大高城兵糧入れ」を行ったことは有名です。翌朝には、丸根砦を陥落させましたが、義元が討ち取られた知らせを受けて、家康は城を脱出し岡崎へ逃れました。その後、織田方の城となり、後に廃城となりました。元和2年(1616年)尾張徳川家の家老志水忠正の館が建てられましたが、明治3年(1870年)廃墟となりました。当時の遺構も残っており、国の指定史跡に認定されました。堀の一部も残っており、昭和13年(1938年)、丸根・鷲津砦跡とともに国指定の史跡となりました。

4 春江院(しゅんこういん)

曹洞宗、弘治2年(1556年)水野大膳(大高城主)が創建。本尊は多宝如来。本堂は文政13年(1830年)に、入母屋造りの鐘楼は慶応元年(1865年)に再建されました。書院は有松絞りの開祖竹田庄九郎宅のものを移築。特に襖絵の「白さぎ」は狩野永秀の筆によるものです。また、静けさと奥深さとの配合の美しさが見られる下村実栗作成の庭があります。(平成17年国登録文化財)

寝覚の里(ねざめのさと)

明治時代に、熱田神宮の宮司が日本武尊と宮簀姫命の故事から碑を建てたということです。この地は昔は海岸で、潮が打ち寄せられて毎朝潮騒の音で目が覚めたという伝説があります。

5 氷上姉子神社(ひかみあねこじんじゃ)

祭神は宮簀姫命(みやすひめのみこと)。仲哀4年(195年)の創建。熱田神宮の摂社で、延喜式内社。日本武尊(やまとたけるのみこと)が八岐の大蛇(ヤマタノオロチ)を退治して、その尻尾から出てきた草薙神剣を持って東征を行いました。その帰途この地にとどまられた際に宮簀姫命と結婚されました。宮簀姫命は日本武尊がなくなった後、草薙神剣を奉斎守護して、やがて熱田神宮にお祭りしました。これが熱田神宮の創祀です。その後持統4年(690年)に現在地に移りました。境内末社として、元宮、神明社、玉根社が現存しています。北側の斎田では6月に御田植祭が行われます。

6 酒蔵

江戸時代には、二代目尾張徳川家藩主光友が酒造りを奨励し、城下の酒造業は急速に発展しました。主な産地は知多半島に集中し、知多酒として江戸で灘酒と消費量を二分したといわれています。大高には今も歩いて5分以内の地域に3軒の蔵元があり、この地方では飛騨高山に例を見るくらいで、極めて貴重な存在です。

山盛酒造

住所: 〒459-8001
愛知県名古屋市緑区大高町高見74

萬乗醸造

住所: 〒459-8001
愛知県名古屋市緑区大高町西門田41

神の井酒造

住所: 〒459-8001
愛知県名古屋市緑区大高町高見25

